

最近の高校生を見て、つくづくスゴイものだと感心することが多い。

本紙11月14日付作州ワイド版で紹介された福寺航大さんは、鏡野町の高校2年生であるが、今年の5月下旬に、同町を中心に地域への問題提起や地方創生につながる活動を行うサークル「Kagaminno Youth Circle」を立ち上げ、活発な学習や地域活動を行っている。当初は同町出身者4名でのスタートだったが、11月には作州地域の高校生や出身の大学生ら約30人の活動となった。テーマも地域内外のものにまで広がり、同町の「総合計画」策定の意見聴取にも招待されたりしている。

こういった高校生は別

山陽新聞を讀んで

山陽学園大学教授 中村聡志



に福寺さんに限った話で域に關わる高校生のすはな。私たち山陽学園そ野が広がっているの大地域マネジメント学は、言うまでもなく「〇学」「地域人教育」部にも、高校時代から自ら地域に飛び出し、大人などに呼ばれる、「探求学習」を高校が進めている成果である。教員の指導の下、実際の校外に出て、地域の各所に所在する資

域に關わる高校生のすはな。地域の経済社会の仕組みや、イノベーションに向けた取り組みのやり方を、初歩的なものではあっても体験を通じて学ぶところにある。このカリキュラムの大きな特徴がある。そのことは、地域社の将来に大きな希望を

高校生の活動に關与を

たちと一緒に活動した源や課題を発見し、あの動かし方そのもの経歴を持つ学生も少なくない。また、手前みそに活動を表彰する「地域マネジメントコンテスト」を、2019年から開催している（本紙10月6日付おかくらプラスでも紹介）。

このような、いわば地域への愛着を深めるとを異にしても地域に關

単に地域を知り、地根のICT化が、空間

「山陽新聞を讀んで」は月2回、日曜日に掲載します。